

## ～第1回高校生日本部活動大会 下関市長賞受賞者研修旅行記～

この旅行記は、2014年9月19日に韓国・釜山広域市で開催された第1回高校生日本部活動大会（主催：在釜山日本国総領事館、下関市など後援）で下関市長賞を受賞した学生が、2016年2月17日から22日まで下関市への研修旅行を体験し、その感想をまとめたものです。

研修旅行に関する学生の体験記ならびに本市職員の同行体験記をご紹介します。

### 1. あっという間だった下関

国民大学 国際学部 日本学専攻 鄭 熹 娟(ジョン ヒヨン)  
(釜山東洲女子高校 卒業)

去年の9月、在釜山日本国総領事館が主催する「第1回高校生日本部活大会」が釜山で行われました。私は、許佳顯(ホ ガヒョン)、丁素恵(ジョン ソヘ)という2人の友達と一緒に「アニメ研究部」という部活名で参加して、宮崎駿の作品についてプレゼンテーションをしました。受賞よりも経験のつもりで参加しましたが、幸運にも下関市長賞を頂き、友達が譲ってくれたおかげで、下関に行くことが出来ました。日程は2月17日から22日までの5泊6日(フェリー2泊)で、たくさんのいろいろな経験をしたのですが、あっという間に過ぎた時間でした。

フェリーでは、出発の前に釜山港の写真を撮って、食事の後ベッドに横たわったらいつの間にか寝てしまったという感じで、本当に楽でした。そして、下関に着いてからは、ホテルに荷物を置いて色んな場所に行きました。最初に行った場所は角島大橋です。大橋に向かう途中で、福德稲荷神社と「道の駅 北浦街道 豊北」にも行きました。神社は、アニメとかドラマ、写真で人がいっぱい集まっている光景しか見てなかったのですが、初めての神社は静かで本当に綺麗でした。道の駅ではカフェでデザートを食べました。デザートも美味しかったですけど、韓国には道の途中で道の駅みたいなものは無いので、不思議だったというか面白かったです。

道の駅の後には、まず角島大橋に行きました。角島大橋に向かいながら一番心配したのが曇った天気でしたが、道の駅にいるときに少しずつ晴れました。でも、道の駅から角島大橋までは本当に近くて角島大橋に着いてもちょっと曇っていました。晴れの日が私が見た景色の何倍も綺麗だと聞いて本当に残念でしたが、それでもとっても綺麗な景色でした。死ぬ前に一度は見るべきという世界的な名所らしく、さすがはその名声だと感心しました。





角島大橋の後、角島灯台と、近くの西長門リゾートというホテルにちょっとお邪魔してロビーから景色を楽しんで、昼御飯に瓦そばを食べてドン・キホーテに行きました。韓国でも色々な物があると有名な所で、ドン・キホーテには本当に色々な物が沢山ありました。ドン・キホーテの後は火の山公園に行きました。火の山公園に行った時にはすっかり晴れていて、綺麗な風景を見れました。火の山公園の後は市役所の皆さんと一緒に夕御飯を食べて、ゆめタワーに行きました。



ゆめタワーで見た下関の夜景は綺麗でした。ゆめタワーの後はホテルに戻って1日を終わりました。

2日目は最初に長府庭園で着付け体験をしました。特別にお姫様の着物と官女の着物の2着を用意してくださっていて2着とも着てみました。どれも本当に可愛い衣装で、着ている間自分がお姫様や官女さんになったみたいでした。それに、背景の長府庭園もとっても綺麗で、お雛様も見たりして本当に良い時間でした。そして、長府庭園を見に来ていたおじいさん、おばあさん方々も注目してくださって嬉しかったです。また、偶然長府庭園にいらっしゃったカメラマンの方が私の写真を撮って、わざわざ市役所に届けてくださって本当に良い記念になりました。長府庭園の後は忌宮神社でおみくじを引いたり、城下町を見たりしました。



その後、唐戸市場に行って昼食にお寿司を食べて、海響館に向かいました。海響館には可愛い魚が沢山いて、はしゃぎながら歩きまわりました。イルカショーもペンギンも見ました。イルカショーは小さな頃、幼稚園や小学校の時以来で久しぶりに見れて嬉しかったです。海響館の後は赤間神宮を見て、下関市長にご挨拶をして、ホームステイのお宅に行きました。赤間神宮は、赤い水天門が印象的で大きくてすごかったです。市長さんは本当に寛容な方で、私のつたない日本語にもやさしく対応してくださいました。新聞記者のインタビューも受けて、タレントのようでした。ホームステイ先では皆さんが私のことを歓迎してくれて、一緒に夕御飯を食べながらワイワイ騒ぎました。





次の日は午前にはゆめシティーでショッピングをして、よさこいを体験しました。ゆめシティーには本当に色んなお店があって思いっ切り買っちゃいました。よさこいは初めてで難しかったですけど、みんなと一緒に笑顔で踊りました。よさこいの後は一度、各自の家や仕事に戻って、また集まってハローデイで買い物をして、沢山の人の呼んで私の歓迎会をしてくださいました。たこ焼きを作ったり、手巻き寿司を食べたり皆さんと一緒に楽しい時間でした。歓迎会の後は爆睡という言葉どおりによく寝ました。

下関での最後の日は皆さんと一緒に北九州にお出掛けしました。車を駐車場に停めて、日本のバスや船、電車を利用して移動しました。船で北九州に着いて焼きカレーを食べて、跳ね橋を渡って電車に乗って、小倉に向かいました。あるあるシティーという大きなショッピングセンターで色々な物を買いました。予想していたお小遣いが足りなくてお土産代までいただいてしまい、本当に申し訳なかったですけど、感謝しありがたく頂きました。あるあるシティーでショッピングをした後は商店街を通りすぎて小倉城を見に行きました。日本の城は小倉城が初めてで、大きくて素晴らしい城でした。小倉城を見た後はまた電車に乗って、下関に帰ってきて、フェリーの時間を考えながらホテルの近くのシーモールのカフェでみんなと話をしました。



釜山に帰るフェリーでは皆さんが見送りに沢山来てくださって、本当に嬉しかったです。お土産も本当に沢山貰いました。初めての日本でこんなに貴重な体験ができるとは思っていませんでした。初めての日本が下関で良かったと思います。初めての日本は何もかも綺麗で、人々もみんな優しくて良い国だと思いました。機会があればまた日本、下関に行きたいです。下関以外の地域も行きたいです。

私が下関に行った時には高校は卒業していましたが、大学はまだ入学前でした。下関から釜山に帰ったらすぐに大学に入学し、今は大学生になって楽しい生活を送っています。授業や課題は大変ですけど、それも大事な大学生活の一環として頑張っています。同期生の友達も出来て、先輩たちも優しくして、楽しい生活です。いつか家族や友達と一緒にまた下関に行くことが出来たら嬉しいです。

## 2. 日本語弁論大会下関研修旅行を終えて

下関市総合政策部国際課

釜山広域市派遣職員 大江 敏彦

この下関旅行は、去る平成27年9月19日に釜山広域市で、外務省の在外公館である在釜山日本国総領事館(共催：社団法人釜山韓日文化交流協会)が主催する第1回日本部活動大会において下関市長賞を受賞した学生を実際に下関に招待し、観光地めぐり、文化体験、ホームステイを通じて、肌で下関、そして日本を知っていただくとするものです。従来は大学生を対象とした日本語弁論大会の受賞者を招待していたのですが、今年度は、より若い世代である高校生を対象とした、例えばアニメーションやドラマなどの日本に関係のある部活動の成果を発表し合う大会での受賞者を招待することとなりました。

大学で日本学を専攻する学生であり、そして部活動大会での発表も日本語で行っていただけあって、ほとんど日本語で会話しました。会話もスムーズにできたのですが、とくに素晴らしかったのはムンチャメッセージという日本のSMS(電話番号に対して短文のメッセージを送ってやりとりする機能)のような機能でのやりとりです。事前の打ち合わせは、指導の先生と一緒に1度面談しただけで、出発直前や帰国後の体験記の原稿についてメッセージや電子メールでやりとりをしたのですが、女性らしくやわらかく丁寧でしかも自然な日本語を使いこなしていたのには驚きました。

さて、今回の旅行も、下関、そして日本を知っていただくということで、普通の観光旅行では経験できないようなプログラムとなりました。いろいろと盛り込んだため、行程としても少しハードだったかもしれません。角島大橋、福德稲荷、厚島展望台、吉見の七曲りなどから山陰の海岸線の風景を眺めたり、赤間神宮や城下町長府の歴史的な街並みを巡ったりしました。そして、市長を表敬訪問したり取材を受けたりしましたが、着付けの体験や買い物、イルカのショーがとくに楽しかったようで、やはり若い女の子だなと感じました。

しかし今回も一番の思い出となったのは、ホームステイです。彼女の中でも大変印象的で心に残った経験でした。初めての海外経験でありながら、さらに初めて出会った方のお宅に泊めていただきお世話になるというのはお互いになかなか緊張するものですが、本当に楽しくリラックスした時間を過ごせたようです。とくに今回は、よさこい踊りのチームである「馬関奇兵隊」の代表のお宅にお世話になり若い女性のメンバーと一緒に泊まり、一つの食卓を囲んでおいしい手巻き寿司を食べたり、夜遅くまで話し込んで、ぐっすりと眠れたようでした。そして、日本に浸透している若者文化のひとつともいえる「よさこい」を一緒に踊り、共通の一体感を味わったのではないのでしょうか。さすがは、韓国の釜山奇兵隊との交流をはじめ様々な国との交流も行っている馬関奇兵隊だけあって、温かみがあるだけでなく、オープンマインドで自然体なスタイルのおかげと思われ、頭が下がります。それから、連絡船や電車に乗ったりして、あえて公共交通機関を使う行程を入れて移動させてもらったり、門司港レトロや小倉の繁華街を散策したり、大好きな日本のアニメー

ションの専門店に行ったりと「箸が転がっても可笑しい」年頃の、いわゆる普通の女子学生グループの週末を過ごしたことと思います。

彼女の旅行記のタイトルにもあるように、この旅行の6日間はあっという間のようでしたが、私の赴任した釜山の2年間も、振り返ればあっという間でした。彼女の体験記を読みながらこの原稿を書いています。ちょうど2年前、満開の桜に迎えられて赴任した日が、つい昨日のことのように思い出されます。このように初めての体験は、誰にとっても強く心に残るものだと思います。現在通っている大学はソウルにあるとのことで、しばらくは、釜山から離れての生活となりますが、日本に関係ある仕事がしたいとのことで、さらに数年後は、国際的な舞台で活躍しているかもしれません。彼女の初めての日本での経験が下関であることを光栄に思い期待もしています。

末筆ではございますが、お忙しいところこの下関旅行に時間をとっていただき、ご協力いただきました、たくさんの方々のご厚意に感謝し、お礼申し上げます。また、同行していただいた釜山広域市からの派遣職員である呉在文(オジェムン)さんにも本当によく助けていただきました。若くてお兄さんのようなポジションから、私の足りないところをさりげなくフォローアップしてくださいました。ありがとうございました。